



環境報告書 2014

トヨタ自動車九州株式会社



目次



宮田工場



荻田工場



小倉工場

目次

ごあいさつ	02
環境方針	03
重点取り組み	04
環境取り組みの状況	05-09
(巻末データ)	
大気・水質測定結果	10
環境会計・PRTR排出量	11
CO ₂ ・廃棄物・VOC	12

本報告書は2013年度の活動を対象期間としておりますが、一部の項目については対象期間外の活動も含まれます

「社会の一員として共に歩み、 心から信頼される企業へ」

1. 地域社会より信頼される取り組み

- ・環境リスク未然防止

2. 地球環境保全への取り組み

- ・低炭素社会の構築に向けた取り組み
- ・循環型社会の構築に向けた取り組み
- ・環境保全と自然共生社会の構築

トヨタ自動車九州では、2015年 Vision に「自然との共生」を掲げ、「クリーン＆グリーンを追求し、自然と調和し続ける会社」と「社会の一員として共に歩み、心から信頼される企業」の実現を目指して、いろいろな活動を推進しております。

地域社会より信頼される取り組みとして「環境リスクの未然防止」を最重点とし、自治体・地域とのコミュニケーションの充実により、臭気・騒音・振動などの感覚公害防止に努めております。

一人ひとりが身近な環境課題を『自分の問題』としてとらえ、10年先、100年先の地球環境に想いを巡らせ、持続的成長に向け自ら考え行動することが非常に大切な事だと考えております。

この報告書を通じ、私たちの環境への取り組みを理解していただくとともに、皆様からの率直なご指摘やご意見を頂き、さらなる環境改善に努め、皆様から信頼される企業を目指していきたいと考えております。

環境委員会委員長
副社長 大村英一

環境方針（抜粋）

- トヨタ自動車九州（以下トヨタ九州）では、環境保全の取り組みを経営の最重要課題と位置づけ、「基本理念」「トヨタ地球環境憲章」に基づいて「環境方針」を制定し、全社を挙げより良い地球環境の実現と地域の繁栄に取り組んでいます。

環境方針

(1) 豊かな21世紀社会への貢献

車両の開発段階から積極的に参画し、生産から廃棄の全ての段階でゼロエミッションに挑戦します。

(2) 環境技術の追求

トップレベルの新技术の開発と定着に積極的に取り組みます。

(3) 自主的な取り組み

環境法規の遵守と地域の環境課題を踏まえた自主的な改善を継続的に取り組みます。

(4) 社会との連携・協力

関係会社・地域社会と連携・協力で環境保護に積極的に取り組みます。



I.基本方針

- 豊かな21世紀社会への貢献
- 環境技術の追求
- 自主的な取り組み
- 社会との連携・協力

II.行動指針

- いつも環境に配慮して
生産・使用・廃棄の全ての段階でゼロエミッションに挑戦
 - (1) トップレベルの環境性能を有する製品の開発・提供
 - (2) 排出物を出さない生産活動の追求
 - (3) 未然防止の徹底
 - (4) 環境改善に寄与する事業の推進
- 事業活動の仲間は環境づくりの仲間（関係会社との強力）
- 社会の一員として社会的取り組みへの積極的な参画
 - (1) 循環型社会づくりへの参画
 - (2) 環境政策への協力
 - (3) 事業活動以外でも貢献
- より良い理解に向けて積極的な情報開示・啓発活動

III.取り組み体制

- 経営トップ層で構成するトヨタ環境委員会による推進

トヨタ地球環境憲章

重点取り組み

【2015年 環境の目指す姿】

◆社会の一員として共に歩み、心から信頼される企業を実現

- I. 地域社会に信頼される様に持続的な活動を行い「環境違反・苦情ゼロ」を実現
- II. オールトヨタの一員として積極的な活動を行い「環境取り組みプラン目標」を必達

【環境変化】

◇トヨタ九州

- ☆ 社会との関わり
 - ① 地域・自然との共生：地域重視の経営
 - ② 周辺自治体との連携強化
- ☆ 収益基盤の変化
 - ① 生産変動に伴う柔軟な対応

◇トヨタ自動車

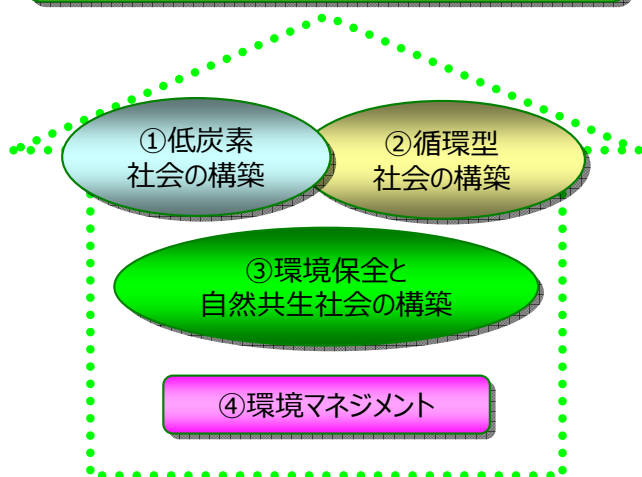
- ☆ 地球環境と調和したクルマづくり
 - ① 地球・社会の持続可能な発展に、環境分野で貢献
 - ② グローバル化と連結管理の強化

◇社会情勢

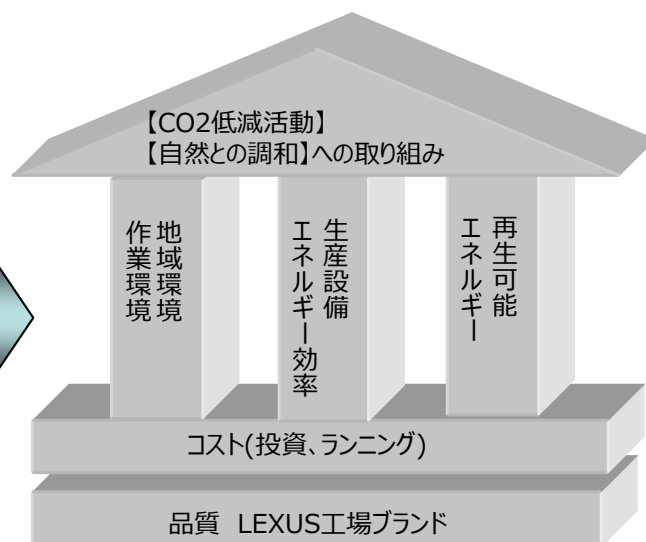
- ☆ 国内景気回復基調 電力供給安定化の遅れ エネルギー単価の高騰
- ☆ 省エネ法改正強化（電力使用の平準化対応）

◆トヨタ自動車方針

モノづくりを通じて
「社会、地球の持続可能な発展への貢献」



◆トヨタ九州ロードマップ (自然との共生)



環境取り組みの状況

取り組みの実績		次年度の活動
項目	実施事項	
I. 環境違反・苦情のゼロ活動		
1.徹底した感覚公害防止活動の継続〔重点活動〕	環境リスク未然防止 ・他社環境違反事例の展開と類似設備の総点検 ・関係会社への未然防止,再発防止のお願い 臭気に対する取り組み ・インパネ排気のRTO接続,導電プライマ水性化 ・光触媒消臭システムのトライ	・車両油洩れの未然防止強化 →マイパーキング点検の推進 ・法令（廃掃法）教育強化による管理の充実 ・発生源対策の推進 ・臭気測定エリアの拡大
II. 第5次環境取り組みプラン（2011～2015）推進		
1.低炭素社会の構築に向けた取り組み	既存設備の徹底した使いこなし ・塗装熱源台数制御による電力デマンド抑制 ・塗装乾燥炉循環風量見直し ・エネルギー見える化の拡大 ・休日の省エネ停電推進→範囲拡大・毎週実施（一部） ミニムム投資による改善推進 ・インバータ化推進 ・照明のLED化 戦略的投資による改善推進 ・省エネ診断、トヨタグループ改善事例の展開	・省エネモデルショップによる推進 ・省エネ停電範囲の更なる拡大 ・非稼働時エネルギーの見える化推進 ・圧縮エアの圧力適正設定 ・鑄造工程の断熱化 ・熱源の近接化検討
2.循環型社会の構築に向けた取り組み	・凝集剤調整による液状塗料粕の含水率低減 ・薬品凝集と袋脱水による排水汚泥の減量化	・更なる含水率低減への取り組み ・排出物の再資源化（有償化）検討
3.環境保全と自然共生社会の構築	VOC低減 ・塗料、シンナーのロス低減と洗浄シンナーの回収推進 ・導電プライマ水性化による低減（バンパ塗装） 周囲と調和した工園づくり ・プラスチックプラント西側の植樹	・洗浄シンナー回収率の維持向上 ・植樹活動の継続
III. 環境経営		
1.環境マネジメントシステムの充実	環境関連法令の確実な遵守 従業員への啓発推進 ・環境月間行事（自然エネルギー発電所の見学等） ・教育用DVD展開（昨年度より継続）	法令遵守の徹底 ・官庁窓口部署の相互チェック ・従業員のエコマインド向上
2.CSR向上への取り組み	関連会社との環境意識共有と環境リスク最小化 社内外への積極的な環境PRと啓発推進	地域コミュニケーションの継続 構内の協力企業への活動支援

I. 環境違反・苦情のゼロ活動

■ 環境リスク未然防止

環境違反・異常等の発生を防ぐため、環境ヒヤリ未然防止活動等を継続して取り組んでいます。

- 主な取り組み
- ・過去のヒヤリに基づく『定期処置訓練』と『関係会社への未然防止展開』
 - ・他社事例の『社内横展』及び『未然防止充実強化』など

トップ参加の処置訓練風景（副社長・部長）



関係会社への情報展開



排水処理管理状況の現地確認会(工場長・部長)

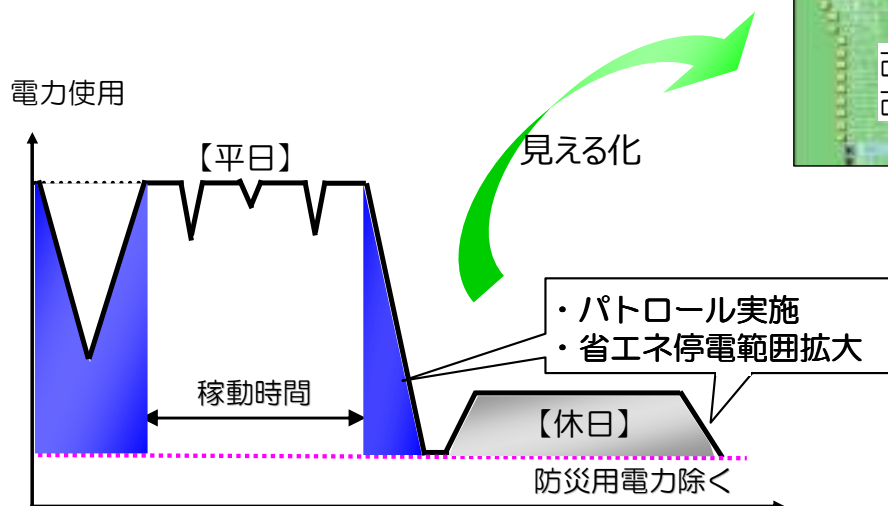


II. 第5次環境取り組みプラン推進

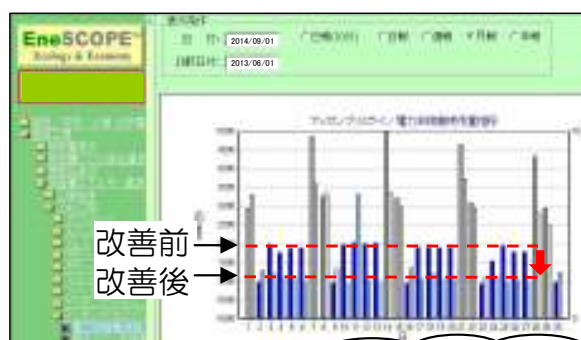
1. 低炭素社会の構築に向けた取り組み（CO₂低減）

① 使いこなしの徹底

非稼動時エネルギー低減の為、その時間帯の電力を見える化し、計画的に改善活動に取り組んでいます。



エネルギー監視システム



ロスの気づき
低減効果が見える喜び



II. 第5次環境取り組みプラン推進

②ミニム投資による改善推進

省エネ改善ネタを見つける為、省エネ診断会社と共同調査を行いました。
32件のテーマを発掘し、順次改善を推進しています。

◆実施例（乾燥炉の放熱ロス低減）

【外観】

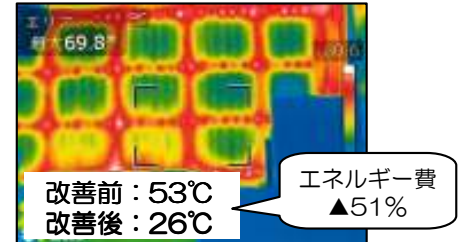
乾燥炉の炉表面に断熱材を取り付け、
炉内温度の放熱を防ぎ、省エネルギーを図る。



【保温材施工】



【表面温度】

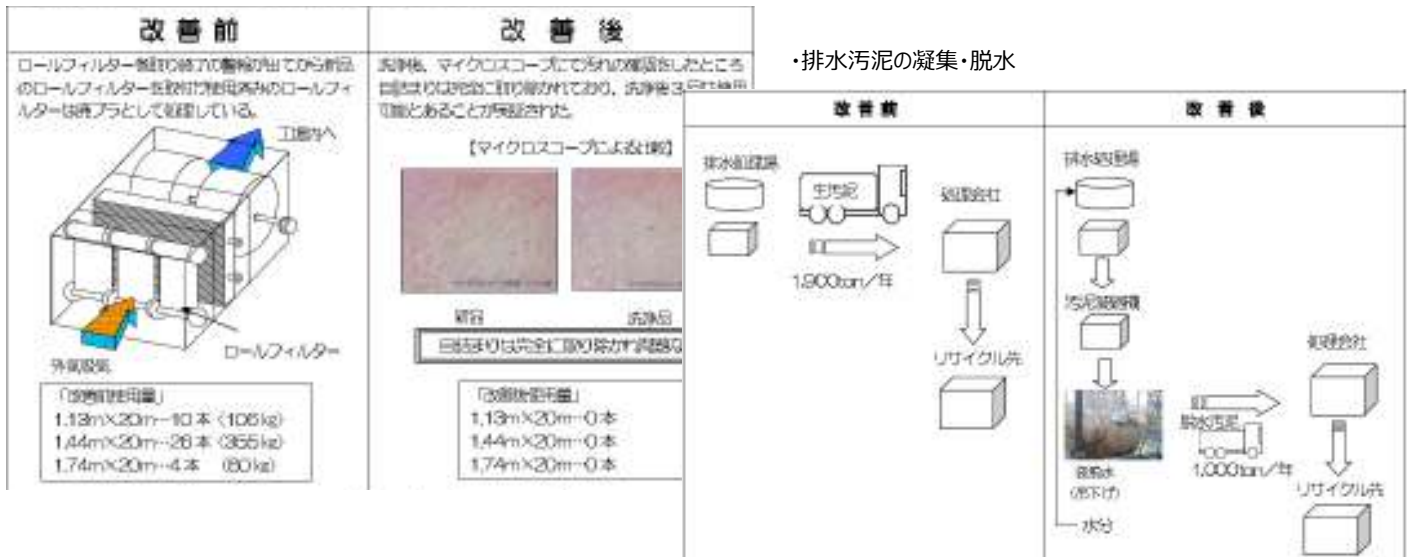


2.循環型社会の構築に向けた取り組み

社内で発生する廃棄物は種類ごとに計量し、分別を徹底することでリサイクルを推進しています。
2001年2月のゼロエミッション宣言以降も徹底した分別と減量化を推進し、ほぼ100%の廃棄物をリサイクル処理（含む逆有償）しています。

◆低減事例（改善活動）

・空調機ロールフィルタの再利用



3.環境保全と自然共生社会への取り組み

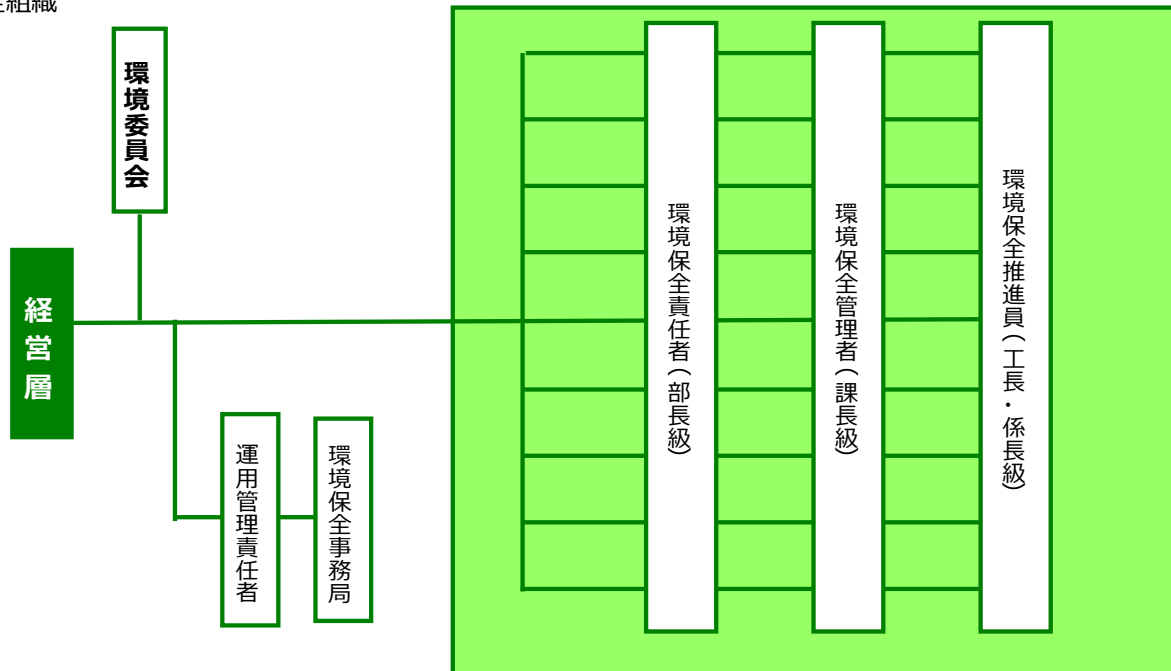
周囲の景観と調和した、緑豊かな工場『工園』づくりを継続的に推進しています。
2013年度は、宮田工場北西部にタブノキやアラカシ、クスノキなどを植樹しました。
2014年度以降も段階的な植樹を計画しています。

III. 環境経営

1. 環境マネジメントシステムの充実

- トヨタ九州では、役員と部長級で構成する環境委員会を設け、各種環境課題の検討を行い全ての部署が環境保全活動に取り組んでいます。

環境保全組織



- 1998年4月にISO14001を認証取得しました。環境マネジメントシステムのツールを活用し、環境保全の更なるスパイラルアップを目指して継続的な活動を行っています。また、内部監査員の講習は社内の環境規程を教材に用い、外部機関の講師による実践的な教育を実施しています。



内部監査員講習の様子

- 2014年6月に台湾エコラベルを取得しました。台湾政府による工場監査を受け、一定の環境基準を満たした車種としてレクサスRX、CT、ESの3車種が『エコラベル』を取得しました。



III. 環境経営

2. エコマインドの向上

■ フォローアップ教育資料の展開

従業員の意識向上を目的に、啓発用の動画を作成し、各部での活用を展開しています。約6分半の動画の中で、会社を取り巻く環境課題の説明や、マイカーからの油洩れ防止廃棄物の正しい分別、通勤時のマナーアップなどの徹底をお願いしています。

■ 環境月間行事の推進

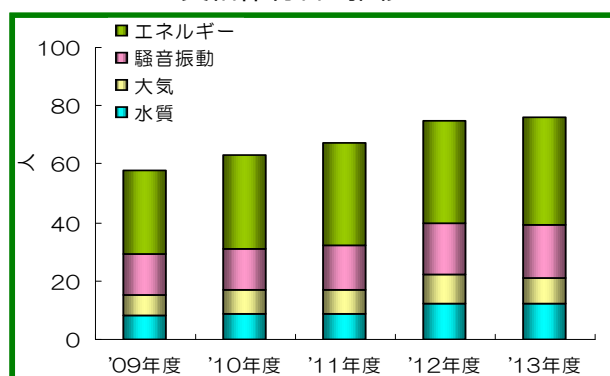
毎年6月を『地球環境月間』と位置づけ、さまざまな行事を実施しています。

行事	内容	
環境委員長メッセージ	環境に対するトップの思いを表明	従業員
環境啓発DVDによる教育	身近な課題への認識を深め、自分ごととして考え取り組む	職場毎
ライトダウンキャンペーン	一斉消灯と定時退社	事技系職場
環境見学会	他社の取り組みを学び、活動の参考とする	従業員
環境ヒヤリの防止活動	過去の事例に基づく異常処置訓練の実施	社内各部
	構内乗入車両のドライバーへ環境啓発の呼びかけ	取引先等
改善提案（創意くふう）表彰	環境保全に関する優秀な改善提案を表彰	従業員

■ 法令の確実な遵守

環境保全上必要な資格保有者を育成するため、国家資格取得を毎年計画的に推進しています。

資格保有者の推移



■ 地域とのコミュニケーション

工場見学会、各種交流会やボランティア活動を通じ地域住民の皆様との交流を深めております。



工場見学会の様子

巻末データ

【排水測定結果】

2013年度実績

宮田工場

	規制値	最小	最大
pH	5.8~8.6	6.7	7.0
BOD	日間平均 10	0.6	2.5
SS	日間平均 25	0.5	1.6
油分	2	0.1	0.2
フッ素	8.0	0.5	3.6
銅	2.1	0.01	0.04
亜鉛	2.0	0.2	0.5
フェノール類	1.0	0.03	0.06
溶解性鉄	7.0	0.04	0.43
溶解性マンガン	1.4	0.01	0.57
(mg/l)			
大腸菌群	2,100	<30	50
(個/ml)			

荻田工場

	規制値	最小	最大
pH	5.8~8.6	7.3	8.0
COD	15	0.6	3.2
SS	20	<1	<1
油分	2.0	<0.5	<0.5
フェノール	1.0	<0.3	<0.3
窒素	15.0	0.8	8.9
リン	1.0	0.1	0.7
(mg/l)			

(瀬戸内海環境保全特別措置法汚濁負荷量)

	規制値	最小	最大
COD	7.2	0.1	1.2
窒素	7.2	0.1	3.6
リン	0.48	0.01	0.18
(kg/日)			

【ばい煙測定結果】

2013年度実績

宮田工場

	設備名	規制値	実績
NOx	冷温水発生機 (4基)	110	31.5~86.0
	小型貫流ボイラー (30基)	120	16.0~26.0
	乾燥炉 (8基)	184	2.0~55.0
	ガスエンジン (5基)	500	121~170
	総量	45.0	11.5
(ppm)			
(m ³ /H)			
ばいじん	冷温水発生機 (4基)	0.10	0.001
	小型貫流ボイラー (30基)	0.10	0.001
	乾燥炉 (8基)	0.10	0.002
	ガスエンジン (5基)	0.05	0.002
	総量	32.0	0.7
(g/m ³ N)			
(kg/H)			

荻田工場

	設備名	規制値	実績
NOx	冷温水発生機 (ボイラー)	80	64
	金属加熱炉	120	73
	砂再生炉	175	17
(ppm)			
ばいじん	冷温水発生機 (ボイラー)	0.05	0.001
	金属加熱炉	0.05	0.008
	砂再生炉	0.05	0.005
(g/m ³ N)			

小倉工場

	設備名	規制値	実績
NOx	冷温水発生機 (ボイラー)	150	69
(ppm)			
ばいじん	冷温水発生機 (ボイラー)	0.25	0.001
(g/m ³ N)			

[環境コスト]

環境保全コスト		2013年度実績		2012年度実績	
分類	主な取り組みの内容	投資額	費用	投資額	費用
(1) 事業エリア内コスト					
① 公害防止コスト	成形塗装工程対策	21		15	1
② 地球環境保全コスト	省エネ投資、大気・排水分析等	450	22	374	15
③ 資源環境コスト	排出物分別処理費用等		158		153
(2) 上・下流コスト					
(3) 管理活動コスト	ISO審査費用等		15		25
(4) 研究開発コスト					
(5) 社会活動コスト					
(6) 環境損傷対応コスト					
合計		471	195	389	194

(百万円)

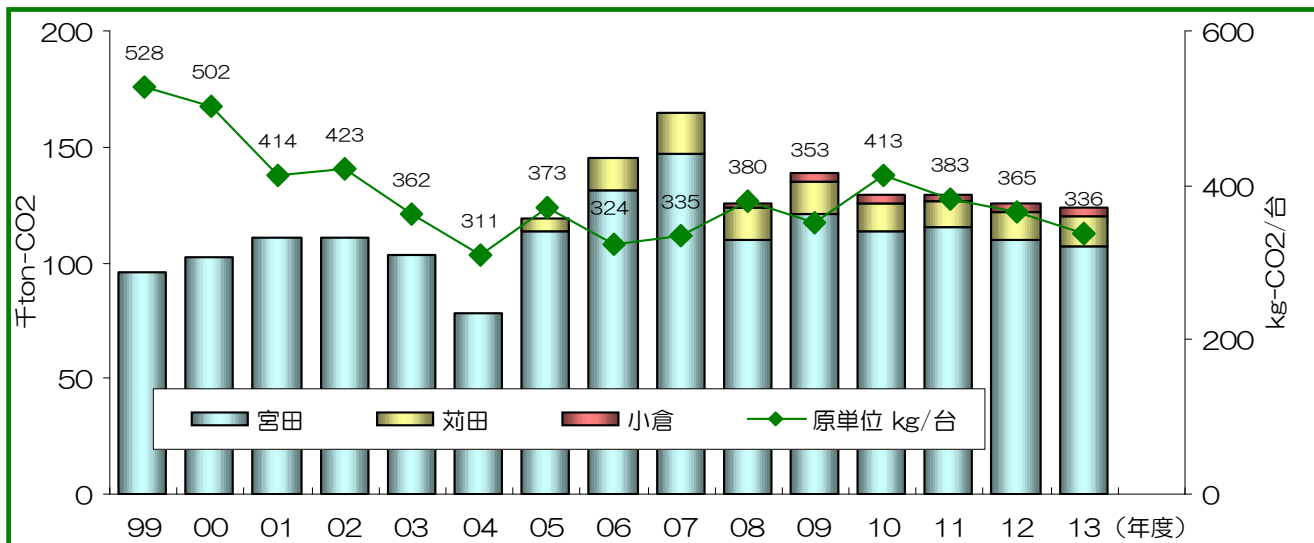
[PRTR法対象物質排出・移動量]

	管理物質番号	化学物質名	排出量		合計	移動量
			大気への排出	公共用水域への排出		
宮田	1	亜鉛の水溶性化合物	0	246	246	3,217
	53	エチルベンゼン	60,674	0	60,674	0
	80	キシレン	71,309	0	71,309	0
	239	有機スズ化合物	0	0	0	412
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	33,479	0	33,479	0
	297	1,3,5-トリメチルベンゼン	21,156	0	21,156	0
	300	トルエン	88,930	0	88,930	0
	302	ナフタレン	48	0	48	0
	309	ニッケル化合物	0	378	378	468
	374	ふっ化水素及びその水溶性塩	0	2,705	2,705	1,325
	392	n-ヘキサン	163	0	163	0
	400	ベンゼン	24	0	24	0
	407	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)	0	40	40	5
	411	ホルムアルデヒド	1,257	0	1,257	0
	412	マンガン及びその化合物	0	123	123	344
	438	メチルナフタレン	23	0	23	0
448	4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート	0	0	0	0	
苅田	80	キシレン	26	0	26	0
	188	N, N - ジシクロヘキシルアミン	0	0	0	1,281
	258	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	318
	300	トルエン	207	0	207	0
	392	n-ヘキサン	610	0	610	0
小倉	240	スチレン	1,409	0	1,409	0

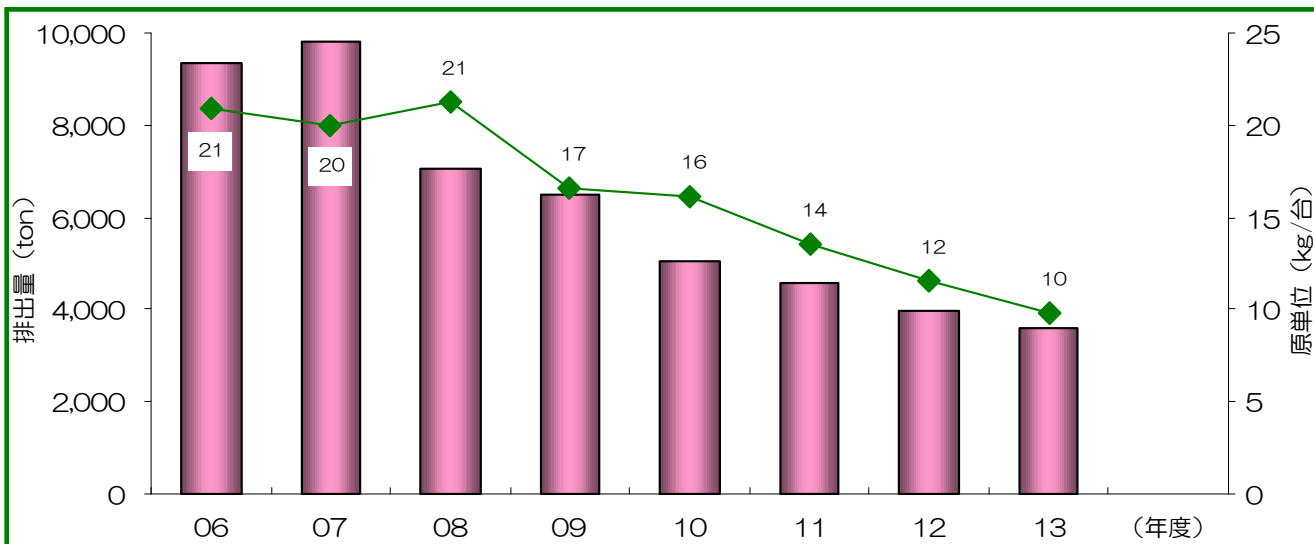
(2013年4月～2014年3月)

(単位 : kg)

[CO₂排出量の推移]



[廃棄物 (※) 排出量の推移]



(※) 全て逆有償リサイクル処理

[VOC排出量の推移]

